

朗読座
新春公演2019

源氏物語の語りを楽しむ

紫のゆかりの物語



当時の宮廷に仕える女房たちが、現代語訳で語りかける——。
「幻想的で官能的な生演奏とともに、
光源氏最愛の女性の物語をお届けします」(紺野)

2019年1月4日(金)、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホールにて、「紺野美沙子の朗読座・新春公演2019 源氏物語の語りを楽しむ——紫のゆかりの物語」が上演される。千年の時を超えて今なお人々の心をとらえて離さない「源氏物語」。興味はあるけど「朗読は難しそう…」「退屈なのでは？」という方もご安心を。「いろいろと工夫がありますので」といたずらっぽく笑う紺野美沙子が、ユーモアたっぷりに本公演の魅力を語ってくれた。

現代語訳でよみがえる

切なくも美しい愛の軌跡

「源氏物語」は、紫式部が平安時代中期に書き上げた長編小説。帝の第二皇子として生まれながらも臣籍降下により皇族の身分を離れ、源氏姓となった光源氏の栄華と苦悩、さらにその子孫らの人生を描いた物語。現在、世界20ヶ国語で翻訳される日本文学を代表する傑作のひとつだ。70余年4世代に渡る壮大なドラマから本公演では、光源氏が最も愛した「紫の上」の話に焦点を当てる。

「光源氏は須磨へ下ったことから、一時期落ちぶれたような印象もありますが、その後は迎賓館のような御殿で悠々自適に暮らしている。そんな方の一番手なら紫の上の境遇も良かったのかもかもしれません。でも結局、彼女は子供を持つことができず、光源氏と明石の君との間に産まれた女の子を実子として迎えている。しかも、晩年は……。現代と平安王朝の世界では、恋愛観や男女の在り方があまりに違い過ぎますから、光源氏ってどれほどかっこ良かったのかわからないと思います。昔ならジュリー(沢田研二)、今ならどんな役者さんかしら。でも、あっと驚くほどの格好良さなら、何でも全部許せちゃうのかもしれないですね」

じつは紺野、慶應義塾大学文学部・

国文科に学んだが、3回生の時、「膨大な資料を読むのが嫌で」真っ先に専攻から外したのが『源氏物語』であり、本格的に作品に触れたのが「漫画『あさきゆめみし』だった」と明かす、れっきとした「源氏初心者」。ところが2017年、中学時代の恩師の紹介で早稲田大学名誉教授・中野幸一が刊行した『正訳源氏物語本文対照』全10冊の記念朗読公演を依頼されたことで、本公演が実現した。

「それまでは、光源氏の恋の遍歴が書かれた物語というイメージが強くて苦手でした。次から次へと浮き名を流して嫌だわって(笑)。でも中野先生の著書を拜読して、自分は物語のほんの一面しか見ていなかったんだなと。実際には光源氏の晩年や彼が亡くなった後のことまで描かれていて、こんなにも壮大な物語だったんだと驚きました。男女の愛憎だけでなく、愛と裏返しに罪、人間の愚かさや弱さといった部分が、千年の時を超えても色褪せず描かれている。しかも、中野先生の訳は原文に忠実な上、『ですます調』で書かれているので非常に聞きやすい。当時の宮廷に仕える女房たちが、本当に語りかけているような感覚になると思います」

裏面に続く



気楽なトークと生演奏で

「眠くならない」朗読劇を

瀬戸内寂聴から角田光代まで、現代の作家もこぞって現代語訳に挑む『源氏物語』。本公演は、その魅力の一端に触れられる絶好の機会だが、ただの朗読に終わらないのが紺野流だ。「誰も眠くはならぬ」をコンセプトに公演は2部構成。第1部のトークセッションではゲストに早稲田大学文学術院教授・陣野英則を迎え、作品の見所を掘り下げる。

『源氏物語』は全54帖もあるとか、今さら聞けないような部分から、なぜ光源氏は紫の上をそこまで想ったのかという本編の背景まで、分かりやすく大胆に聞いていきます。陣野先生は大学の中でも一番お話が上手で面白い

先生なので、当日は『光源氏の扮装で出てください』とお願いしたんですが、それだけは勘弁してほしいと断られました(笑)」。朗読座では、毎回様々なアーティストとの競演も話題で、今回は二十五絃・中井智弥、パーカッション・相川瞳の演奏と共に、時代ごとに描かれた錦絵の映像が紺野の朗読を彩る。

「生演奏との相乗効果で、朗読の世界がより広がっていくのを毎回、私自身が体感しています。中井さんは本当に演奏がお上手で、一度聴いたら

誰もがファンになっちゃうほど。超イケメンでもあるんです。二十五絃の豊かな音色で、紫の上の心情や時の流れを幻想的にも官能的にも演奏してくださる。また、今回初めて一緒にする相川さんは、NHK朝の連続テレビ小説で有名になった『あまちゃん』バンドとして紅白にも出演された方。才能に溢れた方々の力を借りて、私の朗読も一気にパワーアップ!という感じで「目の肥えた観客にも「きつとご満足いただけるはず」と胸を張る。

「東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関西にも海外からたくさんのお客様がお越しになると思います。中には、教養として『源氏物語』を読まれている方もいると思うので、今回の朗読公演をご覧いただければ、源氏の話が出た時にも尻込みせずに、楽しく会話ができると思います(笑)」



(構成・文／石橋法子)

朗読座
創設2019

源氏物語の語りを愉しむ

紫のゆかりの物語

2019年 1月4日(金) 2:00pm

全席指定・税込
A ¥3,000 B ¥2,000

※開演は開演の30分前 ※未成年者入場不可

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市美松町2-22 阪急西宮北口南改札口西側 / JR西宮駅より徒歩15分(阪急・5分)

第一部 トークセッション

～「紫のゆかりの物語」を
より楽しむために

第二部 朗読「紫のゆかりの物語」

演出：鎌田伸二

出演：紺野美沙子 (朗読とおはなし)

陣野英則 (解説)

中井智弥 (二十五絃)

相川瞳 (パーカッション)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 <http://www.gcenter-hyogo.jp>

(10:00am-3:00pm 月曜休み ※祝日の場合要旨)